

56 市民連合

めぐろ・せたがや

市民連合 めぐろ・せたがや

これが市民の声だ。衆議院5区・6区小選挙区の
野党候補者に聴いてもらう会 議事録



●開催日時／2016年4月23日(土) 18:15～21:05

●会場／太子堂区民センター 1階和室

◆出席者(部分参加を含む、敬称略)

鈴木(6・セ)、志村(5・世)、斉藤(5・目)、水野(5・世)、角倉(5・世)、城間(6・世)、吉澤(5・目)、島永(6・世)、
小林(5・世)、中山照章(6・世)、長井(6・世)、山田(6・世)、高橋(6・世)〔記〕
他、総勢38名(政党関係者を含む)

○ 司会を鈴木さんにて、議論を行った。

1. 第1部

- 1) 鈴木さんから、世田谷勝手連(せた連)発足から市民連合めぐろ・せたがや(めぐせた)への経過報告。
- 2) 統一候補づくりおよび、本日の「聴いてもらう会」の趣旨について鈴木さんから説明があった。
 - ・市民が仲立ちとなって、野党候補一本化をめざす。
 - ・今回の選挙は、政権与党を落とすために野党統一候補を、仮に自分が支持する政党はなくても、考えが異なっても応援することになる。
 - ・その候補者に市民の声を聴いてもらうのが今日の会。質疑応答ではなく、私たち市民の要求、思いを候補者に聴いてもらう、ぶつけてもらう場。
 - ・候補者にはその後、感想を述べていただく。
- 3) 今後の政策協定に向けての活動計画の説明
めぐせたの次の段階である政策協定締結の例として、宮城県の政策協定(「原発」、「税制」、「辺野古」を含む)が紹介された。政策協定締結まで持ち込むには市民の大きな同意、世論の動きがある。そのために4/30のめぐせたの「野党一本化で総選挙勝利を目指す市民集会(150～200人規模)」を行う。民進党と日本共産党にならんでもらい「がんばります」という姿を見せる、それをニュースにして、区内の人に見てもらう。「あ、今度は一本化するんだ、勝てるかもしれない」という空気を作る、それを見て政党本部も「一本化するか」と思ってもらい、「政策協定締結」調印にのって来る、そのように進めたい。4/30の集会では、調印式には至らないと思う。それぞれの党本部での承認が必要なので、調印はできないが、それを後押しするムードを作ることはできる。
- 4) めぐせたでは政策協定の内容をどうすべきか。4/30の市民集会そのものは、アピールする場で、政策協定の内容の詰めは、その前後でおこなう。宮城県の政策協定書の内容を再度確認したあと、参加者から協定の内容に関して意見を求めたところ、下記の発言があった。
 - ・日本はいつ大地震が起こるのかわからない。「原発再稼働反対」は必ず入れるべき。
 - ・2/19の5野党合意、市民連合の3項目合意に基づいて「安保法制反対」の一点にしぼり、大きな連帯を作ることが、今回はもとめられる。
 - ・民進党の内部事情、に留意する必要あり。原発稼働容認の党员、支持組織がある。
 - ・東京2区(文京・台東・中央)では、民進党から2名が候補の名乗りを上げている。
 - ・誰が候補者になろうと、野党一本化した候補であれば、めぐせたとして応援するべき。政党内部の状況にあまり踏み込む必要はない。
 - ・民進党には、「共産党と手を組むと、逃げる票がある」と思っている党员がいることに、留意が

必要。

- ・ 5区・6区の野党候補者はみな「市民連合の3項目合意」に賛成、反原発の方向性。問題はTPP、消費税。
- ・ 宮城県では「市民連合の3項目」、「5野党4項目合意」からさらに踏み込んでいるので、めぐせただでも具体的に踏み込んでいいのでは。
- ・ 「共産党と組むと票が逃げる」というのは、昔はともかく、今はない。安倍政権と共産党のどちらを選ぶのか。いま自公を選ぶということは、安倍と心中するという事。それでいいのか？と聞けばよい。全権委任法のようなものを作る、と今すでに言っている。だから「安倍政権阻止」だけでもいいのだが、一般の人は「〇〇反対」ではついてこない。一般の人たちに「受けの良い」実現しそうなスローガンを一つか二つあればいい。
- ・ 「立憲主義」では一般有権者には届かない。わかりやすいものにするべき。ロシア革命の時の「パンと平和」「貧農に土地を」に匹敵する具体的に練られたスローガン、わかりやすい言葉がほしい。日本の有権者はレベルが高いから立憲主義でもわかると思うが、18歳の青年にわかるだろうか。中身は立憲主義でもよいが、スローガンとしてはもっと練らないと。
- ・ 「とにかく安倍政権はダメだ」でいいのでは。
- ・ 安倍政権支持の人には通じない（効果がない）。
- ・ 今、最も重要なことは、立憲主義の重要性を説くこと。このことを、少し大変かもしれないが、みんなにわかってもらうことこそ、今回の選挙では最も重要。何が一番重要か、ということをしらしてしまつと、政権与党の「経済の方が重要だ」で押し流されてしまう。立憲主義がなくなれば、それは近代以前にもどつてしまう、ということ。
- ・ 立憲主義とは、民意を無視してはならない、ということ。辺野古問題で顕在化している。
- ・ 天皇といえども、憲法の規定に従う、ということでもある。
- ・ 「憲法守れ！」ということ。これをどうやってみんなにわかってもらうか、工夫するか。
- ・ 立憲主義という言葉には、やはりひっかかる。一般的な言葉ではない。そのようなむずかしいことを説いていくのは大変。「安倍さんには任せられない」ということをシンプルに出ればいい。「立憲主義」という言葉はいらない。シンプルに言っていけないと、一般の人には通じない。「固い言葉」は議論の場ではいいが、みんなに伝わる言い方でないと。
- ・ みんなにわかってもらうにはSEALDsの言葉が参考になる。「だれも殺すな」「みんなの暮らしに税金つかえ」「国民なめんな」等。「主権者はわたしたちひとりひとりだ」ということをわかりやすい表現にしたらいいいのでは。政策協定で使われる表現としてはまずいかもしれないが、みんなに訴えかけていく言葉としては、わかりやすい表現としたい。
- ・ 「立憲主義」ということばは本当に重要なことば。憲法は権力を縛るためにあるので、私たちの人権を守るためにあるもの。それを安倍政権は無視してやっている。今の社会の規範が崩されている。「固い」と言つて知らない人がいることが怖い。近代国家から立憲主義を取つたら、前に戻つてしまう。「むずかしいから」という問題ではない。わたしたちが人権を守るために憲法があつて、その憲法の基で政治が行われる、社会がある、規範である、そのことを私たちは、いろんなもくろみがあり、知らされてこなかった、でも私たちは安倍さんのおかげでそれを知つた、それをもつと浸透させる、私たちの言葉だと思つ、それを行つていかなければならない。みんなに訴えていく際に、わかりやすい表現をくつつけていけばよいのであつて、立憲主義が固いとか、むずかしいとかいつて使わない方がよい、というのは非常に危ない考え方と思つ。近代国家の規範だ。私たちの人権を守るもの。
- ・ 「立憲主義」という言葉を前面に出すかどうかはともかく、その精神は絶対残さないといけない。たとえば「国まかせの政治ではなく、民意が築く政治とする＝立憲主義」といった工夫をしたい。国が一方向的にやるのではなく、これだつたら自分の意見が直接反映される、という民意を生かす方法を提示したい。パブリックコメントの結果が特定の組織により決定されるような方法ではなく、距離の近い意見反映ができるかなと思つてもらえる政策を提示したらよい。

- ・一度政権について失敗した民主党（現民進党）が、政権時に失敗した項目について今度はこのように克服して、今度こそこのようなもので政権を目指すから支持を集めます、と言った方が、「どうせ野党なんか長続きしないよ、烏合の衆でしょ」ではなく、かつての失敗を反省して出てくるのかなと思ってもらえるようになる。
- ・「政策合意」ということであれば、「原発」くらいを敢えて入れて民進党自体を「こっち」の方にひっぱりたい。
- ・福井県では、（原発賛成の）連合の事務局長が候補となっている。どのように共産党と具体的に共闘するのか、4/30の市民集会で高田健氏に訊いてみたい。
- ・市民側からは、政策に入れてもらいたいことたくさん持って行って、どこまで入るか、政党側と相談して決めていけばよい。たくさん入るかもしれない。
- ・世論調査によると、「反原発」が多数、ただ、「安倍政権支持」、「改憲」も多数、しかし「9条改正反対」が多数なので、これらの内容を入れてもいいかと思う。
- ・「武器輸出反対」も入れられないか。
- ・「反原発」「武器輸出反対」「辺野古」などは、真っ当な要求だが、今回の選挙では「集団的自衛権賛成」や「辺野古基地賛成」であっても、「安倍政権反対」「立憲主義を守れ」という人までをも味方としなければならない。あらゆる手段を使って、何が何でも安倍政権の議席を減らさねばならない。「キレイなやり方で負ける」のではなく「キタナイ手を使ってでも勝つべき」。今回は、それほど重要な選挙。負けたら大変なことになることを強調したい。
- ・市民の側から「一本化を求める」、次に「議員」とともに市民が政党本部に対して「一本化をもとめる」ことに合意する。ここまでは4/30の市民集会。次に考えるべきは政策。共通政策の模索は重要。民進党の内部事情を考えると、世田谷での民進党の動向は重要。
- ・東京8区（杉並）は、民進党の落下傘候補、民進党の元議員、共産党の区議と、乱立状態。相手の現職の石原伸晃議員は10選をめざす。市民主導で新たな候補を擁立する可能性もないではない。2013年は山本太郎氏が無所属で出馬した。
- ・市民主導の候補であれば、よほど知名度があるか、人徳や見識、能力のある人（50年前の都留重人、今でなら国谷裕子さんレベル）でないと、ダメなのでは。

2. 第2部

下記政党関係出席者をふくめ、会を進めた。

- | | |
|----|-----------------------------------|
| 6区 | 民進党 落合貴之衆議院議員、共産党 岸たけし元世田谷区議会議員 |
| 5区 | 民進党 手塚よしお元衆議院議員、共産党 宮本栄目黒地区委員会委員長 |

1) 自己紹介

- ・落合氏：みんなの党時代に、党の「特定秘密法賛成」に反対し、離党。2013年選挙で比例区当選。安保法案も重要で、原発も取り上げてきたが、特に今年に入りアベノミクスには決定的に対案を出した方がいいと思っている。経済の面でも活動していきたい。
- ・岸氏：前回の衆議院選挙立候補の時にいただいた声で一番多かったのは「戦争する国には絶対にしてもらいたくない」。安保法案は通ったが、市民運動の盛り上がり革命的状況。市民の声が活かされる政治になるよう、今日は話をよく聴きたい。私なりの立場でがんばる。
- ・手塚氏：終始一貫、平和憲法・九条を守るという立場で活動してきた。ただ、民進党には違う考えの人もいる。憲法改正議論を進めるよりもっと重要な問題がある。社会的基本的理念として、今の時代、これだけ格差が広がっている社会では「自由」より「公正」「共生」が重要。次の選挙で



は「国家」対「多様性のある個人」との闘いとなる。

- ・宮本氏：4/17の目黒区長選挙では敗れたが、4割の得票を確保した。「あまりに酷い区政を変えよう」を訴え、一定の手ごたえがあった。今度は国政選挙で市民と共同して安倍政権打倒の流れを作りたい。
- 2) 参加者から、候補者（政党関係者）に対して、次のような要望・意見が出された。（発言者氏名省略）
- ・前は岸氏に入れた。旧民主党はフラフラしてよくわからなくなった。今度は、野党統一候補が出ればその人に投票する。国会前に行っているが、国会前行動が好きでやっているわけではない。どうしようもなく、止むに止まれず行っている。国会の外で叫んでもダメだということがわかったので、国会の中まで行って議員に会ったが、そこでちゃんとわれわれの意を受けて行動する人に議員にしないと、ダメだと思っている。安倍政権を転覆して、こちらから国会まで行かなくていいようにしたい。安倍政権が勝ったら、政府転覆する会に踏み込んで来るかもしれない。そうなる前に防ぎたい。なんとか民主主義を守りたいと思ってここにきている。
 - ・上から言われた通りにロボットのように行動するのではなく、自分のあたままで考えて行動してほしい。日本国憲法と日本近現代史を勉強してほしい。今回の選挙の重要性をよく認識してほしい。自分の組織の利害にとらわれて政権与党を利する行動をとった政治家は後世長く断罪される。今、何が重要かよく考えよ。何のために政治家を志したのか。
 - ・「安保法制」も大事だが、基本は、今の政権のあり方の結果。安保法制だけにこだわって今回の選挙がうまくいくのではない。「人の言うことを聞かない」「命を守ろうという気が本当にあるのか」「ああいった審議の進め方」に対する不信感、そういうところに対する疑問に関してキチンと闘ってくれる候補を応援したい。それが野党の連合でできるのであれば、そういう人を是非応援したいし、国会に行ってもキチンと形にしてほしいので、よく見守っていく。国家と個人の権利の関係、女性の権利、選択的夫婦別姓など、女性の意見をきいてほしい。経済対策についても、希望が持てるような対策を出してほしい。
 - ・今回の選挙は、自由な行動が奪われるかどうか、の大きな選挙となる。普通のサラリーマンなので大きな仕事はできないが、自民党を減らすために、一緒になって考える場だと思ってきた。ですから、政治家の人だけをお願いしようとは思わないし、市民としても責任なり負担なりをもってがんばりたい。
 - ・杉並・東京8区から来た。石原伸晃打倒の市民運動（「のぶてる退治」）のメンバー。4月になり、「めぐろ・せたがやの動きが大変なことになっている」とあちこちから聞き、偵察にきた。この会の運営・実務的な点で学ぶべきことがある。「一歩先を歩いている」と思っていたが、来てみると「十歩先」だ。特に候補者を招いてこういう会ができていることはすばらしい
 - ・杉並から来た。1年半前は消極的親自民党の企業役員だった。この1年半、あまりに自民党がひどいので大転換した。「せた連」「東京地域ネット」で勉強させてもらい、市民活動をかなりやっている。今回の一本化のカギを握るのは民進党の動き。杉並では民進党候補がどうなるかわからない。民進党はやはり一度これまでの反省をきちっとすべき。明確にすべきと岡田さんも発言すべき。多様性があるのは仕方がない、いくつかの流れがあることはわかっている。しかし、そこを曖昧模糊として中途半端で、一般の人から見て民進党に都合のいい一本化はダメ。民進党の中で様々な人がいることはわかるが、大きな流れとして、間違ったことは間違ったと反省することをお願いする。一度言わないと、一本化へのマイナスとなる。
 - ・今日は終日北海道5区の池田真紀さんの「電話がけ」をしていた。訴えはおなじ。このままでは右傾化してしまう安倍政権をストップすること。これまでの経緯も現在のしがらみを捨ててください。国民の代表として、国民の気持ちをくみ取ってください。議員個人として私たち国民と同じ方向に向かってください。緊急事態条項、憲法改正に絶対反対です。
 - ・私も皆さんとおなじ。とにかく民進・共産、一本化してほしい。とにかく力強く団結してほしい、自民党は野党の足のひっぱるのが大好きだから、それに負けないように。非常に迷っている層の人たちがいる。安倍さんおかしいと思っていながら、しがらみで支持している人たちも結構いる。そういう風な人たちのところにもキチンと踏み込んでいけるようなアピールをお願いする。

- ・池田真紀さんの「電話がけ」をしていた。イケマキ応援に協力を求めたとき、『安倍政権打倒』が大事だということはわかるが、私はもう自社さ政権の時、民主党政権の時で懲りた」という人がいた。その「懲りた」ということを教訓化してなんとか運動はしなければならない。さっきもあったが、民主党の中の電車連の方に遠慮して「原発再稼働反対」を引っ込めてよいのか。私個人としては安倍政権の「武器の生産・輸出拡大」とか「原発の輸出」とかとんでもない、絶対反対と思っている。そういうものを掲げて政治家と一緒に世の中を変えていきたい、と思っているが、そんなことを言ってもなかなかむずかしい。やっぱり「経済成長」大事だ、という意見もあるが、「熊本で地震が起こっているのに原発を止めないのはどういうことか」と怒っている国民は多い。政権が代わったから、野党が勝利したからといって、安心して何もしないというわけにいかないで、みなさんとともに勝利した後もこれまでの議会制民主主義の限界を超えた、おまかせではない政治を願っている。
- ・60代、70代の仲間と今年の強行採決後大学、高校の前でスタンディングをおこなっている。平和を若者にバトンタッチしたい、という一点からやっている。これまでに延べ14の大学、8の高校の前でおこなった。その中で本当に感じているのは「やはり若者は日本をこれから担ってくれるのだ」と実感できること。この若者に本当に幸せになれる政治をバトンタッチする責任を感じている。このあいだこういうことがあった。小学生に「ぼく、戦争法なんか通って戦争に行くことになったらいやだよな。」と言ったら、「うん」と言って「この署名をすると、戦争に行かなくてすむの?」と言うんですよ、涙が出るほどかわいくて、「そうだよ」と言って話すと「ぼく、二年生だから漢字が書けないけど」と言って書いてくれました。だから、しみじみ、一点です「平和を渡したい!」そういう日本にさせるために、一本でお願いしたい。その一翼を担いたい。
- ・地域九条の会の世話人をしている。選挙運動は今まで関わったことはほとんどない。宇都宮健児氏の選挙で電話がけをやったことがある程度。ですけれど、日本の国が戦争に関わることは絶対にいやなので、今度はなんとしても野党共闘、野党共闘しないと絶対負けると思うので、野党共闘すれば勝つかも说不定、ということに賭けて、何かお手伝できればしたいと思っている。
- ・野党は共闘して衆議院選挙に臨んでください。自公政権が続くと私たちの生活はひどくなるばかりです。そして憲法が改悪されると私たちの人権はないがしろにされ、近代国家とはいえない日本になってしまいます。それを阻止できる政党は野党4党。でも、現在安倍政権支持率は減っていません。逆に野党の支持率はとても少ない。ですから選挙では、もう一度言いますが、共闘して自公政権と対立する軸を持って闘ってください。その政策は特に女性、若者、子供、老人、障がい者など社会的弱者立場の人たちの視点をしっかりもった、そういう立ち位置で作ってください。そしてもっとも街に出てください。私たちと共にあってください。政党として、また立候補者として平和で安心な生活、差別がない、憲法が守られている社会を作る決意を有権者に決意をもって誠実に伝えてください。私は野党共闘が実現したらしたら、その候補者を応援する努力を惜しみません。どうぞ、がんばってください。
- ・日本共産党世田谷地区委員会の者で、6区の責任者です。このあいだ、めぐせたの6人の方と2時間みっちり話をし、勉強になった。気持ちはみなさんとまったく同じ。戦争法廃止、安倍政権打倒、それ以外の問題で、なるべく多くの問題で共通の公約を作って団結をして、安倍政権打倒して、立憲主義回復したいという面では同じ。そして、みなさんと一緒になって候補者を決めて、決まればどの候補者であれ野党候補者が決まれば、わたしたちは全力をあげると、この場でも責任者として約束したいと思います。
- ・インターネットを使って、戦争法廃止の情報だとかデモや集会など、様々なところに入って、その状況を社会に拡散する活動をしている。メンバーは主婦。様々な人がメンバーになっているが、戦争法廃止で一致している。今回は政党も共闘せざるをえない状況だ。私個人としては、民主党政権時の政治には、TPPとかマイナンバーとかあって不満はある。今日、明治大学で金子兜太さんの話を聴いてきた。新宿で高校生の集会を聴いてきた、16歳の人が震える手で「戦争法廃止」、選挙権を持っていないけれど、来週金曜日から国会前に立つ、と言っていました。若い人たちが希望をもって生きていける世の中にしていかなければいけない。本当にここが踏ん張りどころだと思う。
- ・台東区から来た。見通しの明るい政策を期待する。私は30代半ば、氷河期世代。いま、非正規の人が多

いが、そういう人たちへの救済措置、もうちょっとがんばろうかなと思える政策をしてほしい。人口比率的にいうと、30代、40代は多い。その辺の人に訴えかける政策をとれば票が取れるのではないか。自民党も経済再建とか言っているが、その辺のところを政策に入れてもらえば、「今回は選挙にいこうかな」と思っている人も出るかもしれない。

- 文京区（東京2区）から来た。20年前まで世田谷の下馬に住んでいた。2区は市民の動きはまとまりがなく、民進党から2名候補者が出て、市民側からどうしようかと、我々仲間内では話をしている。文京区は共産党が強く古い組織もあり、台東区は商店街で保守的、中央区はわからない。話し合いの場自体を設けるのもむずかしい。小6の娘が、私は署名活動をしているのですが、「ママ、署名用紙ちょうだい。私が知らないうちに戦争に参加するような国になるのはいやだ。だから私たちも署名したい。もしそうなったら、戦争に行かなきゃいけないんだよね。」肌で感じているようです。「安倍さんは信じられない、あんなに平気でうそをつく人が総理大臣で恥ずかしいよ！」。私も今動き始めていくたびれているんですけど、頑張らなきゃいけない、と頑張っていきます。政策を考えるときに、「マイナス30歳」で考えてもらいたい。政治の主役は誰なのか？これから大人になる子供たちです。
- 住まいは世田谷用賀ですが、職場は目黒で、労働組合の役員を42年やっている。今回は負けるわけにはいかない。絶対に目黒でなんとかしたい。ぜひ、「一本」で。
- サラリーマンです。千歳烏山の駅前でビラ配りをしているめぐせたのメンバーに誘われてこの運動に参加した。なんといっても忘れられないのが3.11の原発事故のシーン。あれ、みなさん忘れたのか？と思うんですけど、また再び熊本の地震で川内原発を止めなければいけないのに、なんとまったく自民党は意に介さない。岡田代表は「再稼働は、容認します」と明言。なんで「止める」と言えないのか？！これだけ原発に反対している人が多いのに、あの時、「日本は終わり」と思わなかったのか？背筋にぞくぞくとしたものが走って、あの一瞬は忘れられないのに。岡田代表が言うには「2030年代までに止める」。ということは「2039年まで続ける」ということ。あと23年後、今稼働中の原発は40年の使用期限を超えて60年まで延ばさねば動かせない。使用済み核燃料プールは、あと長くても7~8年。こんなことを絶対に許してはいけません！強く強く思う。
- 1934年生まれで、今81歳。戦争、敗戦、高度成長を経験した。安倍政権になって突然悪くなったわけではない。段々段々悪くされてきて、一つのターニングポイントになりそうなところに来ている。ここで、元に戻れば良いのだが、このまま戦争やファシズムにつっこむことをなんとかしてくい止めなければならない。野党が一緒になれば展望が開けてくる。ヒトラーを止められなかったのは共産党などの分裂だ。野党が一緒になれば、なんとか止められるかもしれない。憲法があるのに、現実が憲法通りになっていない。いまの憲法は天皇制の問題はあるが、そこを別とすれば、明仁天皇は戦争の苦勞をよく知っているから、そこのところを除けば、今の憲法で良いだろう。
- 6歳の娘を持つシングルマザー。おかあちゃんという立場から三点。
 1. 子供には、遊んだあとのゴミは自分で片づけなさい、と教えています。ゴミの捨て場のない原発は動かすべきではありません。
 2. 子供には、けったり、たたいたり、物を投げたりするケンカはいけません、話し合いをしましょう、と教えています。武器輸出、武器製造を進める経済政策は容認できません。
 3. 子供には、ウソはいけません、と教えています。どっかの首相のように平気で公約を破ったり、わざわざテレビで子供でも分かるウソをつくことがないよう、皆様にはお願いします。最後に、正直にはっきり言います。私は旧民主党は大嫌いです。本日お越しの中に旧民主党の方がいらっしゃるのでも申し訳ないのですが、でもその方が統一候補にきまったら、全力で応援し、絶対に当選していただきます。おそらくここにいる全員がその覚悟です。そして、ちょっとでもその方を好きになるような努力はしたいと思います。是非それを踏まえて、死ぬ気で勝ちに行ってくださいと思います。全力でサポートいたします。
- 世田谷桜丘の6区です。6区と「確かめる」くらい選挙のことは素人でぜんぜんわからないけれど、戦争法案が通って、その前後から動き出して、10月からデモをやっている。私たちがデモをやると、商店の人も手を振ってくれるし、子供たちに最後公園で風船を上げると喜んでくれる。私たちが「九条守れ」

と言うと、すごく共感してくれて、手を振ってくれて、私たちがデモをやっていると見せるだけでいいだけで意味がある、と思ってやっています。36歳と31歳の息子がいるが、二人とも「政治的なことはタブーだよ」という気持ちがすごく強い。彼らは「勝ち組・負け組」「自己責任」という言葉がはやった時代に育った。31歳の息子は勉強ができないから就活ですごく苦労して、いろんな企業ですごく馬鹿にされて、これならブラック企業で働くしかない、ということでブラック企業に入って3年間ですごくいじめられた。今はもう少しまともなところで契約社員でやっている。息子たちの友だちはみんなそんな具合で、引きこもったりとか、ちょっと鬱っぽかったりとか、大変です！あの人たちがみんなこのままこれでどうするの？このままで日本はどうなるの？企業のやりたい放題でやらせたら、日本はぼしゃっちやうよ。みんな親の年金で食べている、そんな若者だけだと、どうするの？本当に思います。資本主義を守るためにも、みんなが元気でそこそこ結婚して子供産めないと困るから、資本主義を守るためにも、がんばってください！（拍手）

- ・ 民進党議員の秘書です。今後みなさまからたくさん勉強させていただくことがあるかと思いますが、今後ともどうかよろしくお願ひいたします。今後、立憲主義をとり戻す選挙、みなさんと勝ちたいと思います。
- ・ 世田谷区の代田から来た。昨日まである労働組合の役員をやっていたので、去年一昨年国会前までよく行きました。言いたいことは二つある。

1. 権力の横暴に歯止めをかけてください。8/30以降公安警察の締め付けが厳しい。デモ行進するときも、とぎれとぎれで、やっても動きがわかりにくい。それから、報道規制、マスコミの電波停止はとんでもないが、たとえば、昨年9月の参議院特別委員会の「強行採決」と見出しを出してしまうが、あれは議事録にも載せられないし、見ていた議員が「あの時、委員長の口が動いていない」と言っているのに。「採決」と見出しに出してしまうと、それが既成事実になってしまう。本来だったら、「あれは絶対違う」という裁判があったかもしれないが、マスコミが正しい報道をしなければいけないのに、それさえもできなくなっているのは、言論の自由以前に、言論する方が自分たちに規制をかけているから、問題視しています。
2. 聞こえのいいフレーズだけではなく、多くの主権者が納得する説明を展開してほしい。平和は大事だし、誰も反対しないが、それが防衛力だ、抑止力だ、ということで、若い人の話を最後まで聴くと、「だから武器輸出に大いに支持する」という人もいます。今は、25条の生存権より、13条の個人の尊厳がないがしろにされているような気がします。

決まりましたら、野党の統一候補を全面的に支持したい。

- ・ ルーツが沖縄。4年前は川田龍平議員の三軒茶屋事務所にあった。辺野古新基地反対の沖縄県民の意思の強さ、固さを知ってほしい。辺野古という場所に決まるまで、二つの政府のうそがある。「使用期限」「軍民共用化」と言う条件、それがあから当時の名護市長は受け入れた。それを、日本政府は2006年の閣議決定で廃棄した。とんでもないことをやってくれた、といこともあり沖縄県民は怒っている。本当に、沖縄県民は強い意志をもって、辺野古に基地は絶対に作らせない！という思いを持っている。それを最初に認識していただきたい。具体的な政策としては、憲法95条（一の地方公共団体のみに適用される特別法は、法律の定めるところにより、その地方公共団体の住民の投票においてその過半数の同意がなければ、国会は、これを制定することができない。）に基づく特別法を制定してほしい、ということを通政策の中に、どれだけ文言に入れていただけるか検討してほしい。95条に基づいた特別法を実施すれば、必ず辺野古の新基地建設への圧力をかけることができる。私は民主党政権・鳩山首相が「最低でも県外」と言ってくれたことは、本当に沖縄県民の意識・思いに火をつけてくれたと、それは実現しなかったけれど感謝している。旧民主党1998年から「民主党沖縄ビジョン」を作ったり、非常に深く沖縄に関わろうとしてくれたことに私は非常に敬意を表するものです。一方、維新の党江田さんは橋本・モンデール合意の時の秘書官として、その辺のプロセスを非常に熟知されている、その二つが組んで、一度は旧民主党が反故にした沖縄、辺野古新基地建設問題について仕切り直し、もう一度何か新しい何か希望を持てる政策に育て上げていただきたいなど強く願っています。
- ・ 世田谷区給田に住んでいる。私も、3・11後「何かしなければ」と思い、2013/09以降チラシを駅前配

り始めた。昨年の夏からは毎週土曜、日曜も自分の時間の空いた時に配っている。少しは反応があるかな、と思っている。今年になってからは2000万人署名活動にも参加している。「個人の自己決定権」を尊重してください。「戦争法廃止」「99.9%のための政治」を求める。基本的に、いろいろあると思うが、「排除しない」でやってほしい。わたしもチラシを配っていると自民党とか公明党支持の人が来ますが、そういう人たちを排除しないで、99.9%の人のために政治をやってください。これからは先は長いので、くれぐれも健康に気をつけてください。

- 元議員の秘書をやっている。今は町田に住んでいるが、昔深沢にいた。二人の息子がいるが、彼らに「この国は安全・安心だぞ」という社会をしっかりとバトンを渡していきたい。みなさんとしっかりと考え方を共有していきたいと思っている。
- 目黒に住んでいる。災害やテロを出しにした「国家緊急権」創設絶対阻止。日本国憲法は敢えて国家緊急権の規程を設けていない。1946年7月に憲法改正案委員会で当時の金森国務大臣は明言している。自然災害が起こった時に対応できるよう、災害基本法などがすでに整備されている。災害が起こった時には、中央に権力を集中してもできないものはできないのだ。
- 世田谷桜丘に住んでいる。サラリーマンがなんでこんなことをやっているのか。原発事故がきっかけで、このような運動に参加した。非常に悩んだ。人生が変わった。エンジニアのはしぐれでありながら、なんでもっと反対しなかったのか、ということがある。考えてみれば、原発稼働はご都合主義のかたまり、処理方法もわからないのに次の世代に送る、しかも配管などはローテクで事故はいつかある。しかも、その被害は甚大で回復できない。百万人の人生を変えてしまったという、取り返しがつかない事故。やっぱり、こんなものを許してはいかんな、ということで、とにかく動かしてはいかんな、というのが強い思いです。
- 世田谷区上野毛、5区です。「安倍政権打倒と立憲主義回復」は日本の国家統治の根幹にかかわる。全部これにつながっている。土建国家も、アベノミクス、0.01%の経済も。ここのところを元に戻すということから絶対に逃げてはいけぬ。市民運動の中にも逃げたがる人がいて、これはあかんなと思う。そのレジームをひっくり返そうと、安倍さんは妄想している。ですので、このことは肝に銘じて、最低というか、ここは絶対外せない。その一致点をふまえて、より良い協力関係を作っていただきたい。もう一つ、まず、選挙に勝つこと、参議院そして衆議院。その二回で勝負がつけばいいが、まだ先の話かもしれないが、国会議席の半数をとる。そして法律を作って安保法制を廃止する。そして、政権を取って閣議決定を元に戻す。それは始まりに過ぎない、何年かかるか。なぜなら、レジーム（沖縄の軍事レジームを含む）というのは官僚制をもっているから。戦争機関、軍事官僚自衛隊だ。米軍と一緒に既成事実を作っている。この現実を戻さないといけぬ。大仕事だ。これが最低限、これをがちっと抑えて、後は協力する活動を是非実らせていきたい。

3) 参加者全員の発言が一巡したあと。まだ10分ほど時間の余裕があったので、「言い足りなかったこと」の追加発言を求めたところ、下記の発言があった。

- 民進党はトップがグラグラしているという印象がある。そこへ、市民の声、ここで出た声を、党の上には是非上げてほしい。
- ここにきている人の多くは、普段からこんなことをやっているのではなかった、という人が多いと思う。私は62歳で、他の人より早く会社を辞めたが、人より早く辞めたのは、やりたいことがあったからだが、去年からそれどころではなくなった。今回だけはどうしてもやらなければいけないと思い、やむにやまれず参加している。職業政治家のようにお金をもらっていないし、趣味や好きでやっているのではないけれど、やらなければならない、と思っている。そこのところをよく理解してほしい。
- ボランティアで参加したい。
- 私たちも、投票して終わり、ということがある。そうではなく、その後も声をうまく伝えられるシステムをこれから考えていかなくては、投票しっぱなしになってしまう。
- 民進党のはなしがでたが、原発の問題を今回曖昧にすることは、連合の票を失うことよりも、一般の有権者の票を失うこと、を比較すれば、絶対にマイナスになると思う。(拍手) 中途半端に今回臨むという

ことは結果的に一本化を民進党が大きく責任をもって惨敗する可能性もある。そのところを本当によく考えて、もちろん政党の中で意見を完全統一できないことは仕方ないから、連合の力はみなさんが思われるほど、今はありません。連合の組合員の中でも本当に政治のことを考えて、たとえ東電の家族の方でも入れない人も出てくる。そういう反省というか、具体的な表明をしていかない限り、今回大変なことになると思う。本当に幹部、もう少ししっかりしてほしい。旗色鮮明にせよ！政治というものは変わっていいのです。安倍さんしょっちゅう変わっている。

- そういう気持ちが市民連合の中に一致してある、ということをお互いに知らせる必要があるのでは。
- 政党は会社組織ではない。会社では社長の言うことはどうしても聞かなければならない、いやなら辞める、それが企業。しかし、政党はそうではないはずだ。私たち一人ひとりの思いを背負って集まったわけで、そういう人が何百人と集まっているのに、「誰も何も言わない」というのは、おかしい。たとえ党の拘束があったとしても、私たちが担いで出したわけだから、党の言うことだけ聞いて何も言わないというのは、おかしい！ 本当に。だから、政党を会社にはしてはいけないし、日本を会社にはしてはいけない。安倍は日本を一つの会社にしようと思っている。そうなったら、もう何にも言えない。お前ら、いやなら外国へ行け、とそんな感じだ。そういうことを言われたくないし、どうしても自分たちの自由を確保したい。

4) 最後に、参加者の発言を受けて、4名の議員、元議員、政党関係者から感想があった。

- 落合氏：私は今 36 歳だが、かつての同級生の半数以上は非正規雇用だ。その声を絶対に国会に届けていかねばならない。その気持ちは安倍さんにも、麻生さんにもわからない。デモしても 100 万人くらい集まらなないと、と無力感を感じたと話をされたが、私も武器輸出や安保法制の質問で、国会の中では無力感を感じたが、ただ外でデモがあると、大分違う。ああいう人がいる限りはやろうと思った。10 人、20 人のデモでも、無駄ではないのです。私も、国会でたとえ一人になってもやっていく。しかし、自民党の支持率は 4 割。とはいえ、「自民党支持だが、安倍は支持しない」という人はたくさんいる。こういう人も納得いただける安保政策・エネルギー政策・経済政策を訴えて、この人たちもまとめていける政治をやりたい。簡単なことではないが、頑張っていきたい。



- 岸氏：野党が共闘し市民が協力すれば、自公政権を倒せるのではないか。そういう状況を作ってきたのは市民の運動。みなさんと一緒にがんばっていきたい。一緒に力をあわせたい。



- 手塚氏：「原発岡田発言」について。私自身は「即ゼロ」と言っているが、「原発、どうする？」と問われた場合、私も当時政権の中枢にいたからわかるが、長年の特別な利権（関係従業員やその家族の生活）や、行政の隅々まで行きわたった問題があり、即時ゼロ、「明日止めて一切動かさない」ことは簡単にできない。原発で今生活している人たちへの補償も考えなければならず、ゼロにすることは不可能です。不可能なことを可能だと言えない、というのが一度政権の立場にあったリーダーの岡田さんの立場です。しかし、ゼロにしたい。一方で、党で議論をしたうえで出た「2030 年代までにゼロ」ということをしっかり守っていこうという立場です。その上であえて申し上げたいのは、それではなぜ私が「即ゼロ！」と言うのか、というと、我が党でギリギリ許されているから。ではなぜ「ゼロ！」と言うかということ、それぐらい言っとかないと、相手は原発を再稼働どころか、海外に輸出しようと考えている連中です。その利権を作って持ってきている。声を大にして「即時ゼロ」とみんなが言わないと、われわれの「2030 年」という現実的な話も含めて届かないよ、と言う意味で、私は徹底的に「ゼロ」だと言うべきだということです。これは小泉さんや細川さんと近いもしれない。彼らも総理大臣をやっているわけですから、「あしたゼロ」にできるなんて思っていない。思っているとすると、それは嘘つきです。ただ、それくらい自分たちの立場で言わないと、止まらない、という政治的なパフォーマンス、いい意味でのパフォーマンスだと思います。



沖縄の問題。鳩山さんは今もなお、厳しい評価をいただいているが、今もなお沖縄の問題にはこ

だわりをもってやられている。あの時も、こころの中では「辺野古移設はしない方がいい。最低でも県外」という話をされたと思う。だが、いざ政権の座に就くと、われわれも安保法案反対だといってまとまって、いざ多数を占めて政権を作った時に、現実には直面する。オールジャパンを作らないと、本当の意味で、アメリカといった問題だとか、官僚機構という問題があり、とオールジャパンを作らないと、政権運営は本当に大変だ。これは私が経験則でわかる。安倍総理が一番勉強したことはマスメディア対応ですから。

- ・宮本氏：今日はみなさんのご意見を聞かせていただいて、勉強になった。こういう集まり自体が政治を動かす力になる。後がない闘いだと思う。安倍政権は選挙が終わったら憲法を変える、と言っている。緊急事態条項ということ熊本地震のさなかに官房長官が発言する。本当に人権軽視、憲法軽視ということを狙っている。安倍政権を絶対許してならない、と思う。早く野党間の選挙協力の合意を勝ち取りたい。手塚さんとなりにいますけれど、勝手にここで合意するわけにはいかなくて、中央がしっかりと共産党と一緒にやろうと、野党4党でやろうという決断していただきたいと思っている。われわれも政党としては独自も準備も必要ですから、協議が成るまでは候補者選定を考えていかねばならない。そのことは申し上げておきたいと思う。もちろん共闘を望んでいる。参議院選一人区32あるうち16、半分は共闘ができていて、おそらく全部できるんじゃないか、と言われていました。これは、やはりできたらインパクトになるし、衆議院でも共闘しろ、とますます広がることになるんじゃないかと思う。政策の枠も広げていこう、とのご指摘もありましたが、実際に宮城では桜井さん、この人が政策協定で、沖縄の問題もはいましたし、原発の問題も入りました。消費税とかTPPは、これは合意できないから脇に置いておこう、ということで始まったわけですが、実際に候補者が動き出すと、TPP反対、消費税来年4月増税反対、ということを行っているそうですよ。もう、候補者も変わった、とほかの民進党の人たちもびっくりしているようですが、やはり国民の後押しがあるから、政策合意が広がっていくのは、間違いないと思います。本当に重要な闘いですので、がんばって安倍政権打倒して、まともな民主主義の日本を取り戻す、さらに憲法が生きる日本にしていくし、働き方の問題でも資本主義を発展させるためにも、ブラック企業をなくして、まともな働き方ができるよう、そういう経済政策も訴えながら、われわれもがんばりたいと思う。



手塚氏：2週間前は、同日選挙の可能性は五分五分とみんな言っていた。熊本の地震以後は二三割くらい、もっと低いかも。なぜ安倍さんはダブル選挙を望んでいるのか？32の参議院一人区のうち16の区で共闘している。その一人区で野党候補者がかなり強いと、世論調査で出ている。それを安倍さんはわかっている。単独で参議院選挙に行けば、2007年（自民敗北、政権投げ出し）と同じことになる、ひょっとしたら自分は退陣に追い込まれるかもしれない。だから、政権維持のための一番の方法論はダブル選挙。衆議院選挙にすると、295の小選挙区で与党候補者をフル稼働させる。地方組織をフル稼働させることが、参議院与党の議席を大きく失わないことにつながる。自分の首はつながる。その思惑・魂胆を考えると、ダブル選挙の可能性はある。緊張感をもって活動していきたい。

- 5) 最後に、司会の鈴木さんから、「今日の話の内容を、是非、党本部に上げてください」と政党関係者に要請して、4/30は一本化集会とし、「今度は、勝つかもしれないぞ！」と参加者に感じさせるような集会とすることを、参加者全員が確認して、閉会した。

以上